

遺伝子工学の衝撃：科学にあらず、ウソとプロパガンダ

——遺伝子操作の背後にある巨大な詐欺を暴露

【訳者注】これを読むと、信じがたいことだが、科学者の多くが、個人としても集団（協会、学会）としても、人口削減あるいは人間奴隷化を目論む「人類の敵」帝国に、構造的に組み込まれていることがわかる。2014/12/13 記載の「科学者を監視し鼻づらを引き廻すゾツとする新法」でも同じことを言っている。この記事は、この体制を暴露する「英雄」的な本の出版を祝賀するものである。なぜこういう英雄がもっと出てこないのか？

By Colin Todhunter

Global Research, March 5, 2015

これは遺伝子組み換え産業が見たくなかったものである——大新聞の全段抜きの見出しとインターネットによって、遺伝子組み換えの背後にある詐欺が暴露されている、と考えていただきたい。しかしこれは、広告された悪夢以上のものをなしている。この見出しの背後にある物語は、この産業が存立する基礎そのものを揺さぶっているのだ。

『変えられた遺伝子、曲げられた真実』(*Altered Genes, Twisted Truth*) は、アメリカの公益弁護士 Steven Druker による新しい本である。この本は、米食品医薬品局 (FDA) を相手取る訴訟を始めて起こし、遺伝子操作食品（以下、GM 食品）に関する記録文書を公開させた、ドルーカーによる 15 年以上にわたる集中した調査研究の結果である。これらの書類によって、GM 食品は 1992 年に初めて商品化されたが、それは、FDA が、専属の科学者からの、その危険についての度重なる警告を隠ぺいし、その事実について嘘をつき、連邦食品安全法を破って、基準テストによる安全の保障なしに、これらの食品を市場に出す許可を出したことによることが明らかになった。

もし FDA が、自分の配下の専門家の忠告を聞き入れ、GM 食品には、通常の危険よりはるかに高い危険が伴うという彼らの警告を公的に認めていたら、GM 食品ベンチャーは、自然に消滅して、誰も手を出す者はいなかっただろう、とドルーカーは言っている。

彼はまた、あまりにも多くのよい地位の科学者たちが GM 食品について、ミスリードする声明を繰り返し出しており、米国立科学アカデミー、米科学振興協会、英国の王立協会といった主導的科学機関も、その点で同じだと主張している。

ドルーカーは、バイオテク主唱者たちの主張とは反対に、人類は遺伝子工学の作物を消費することによって、実は害を受けてきたと言っている。この技術の最初の摂取可能な製品（基本的アミノ酸 L-tryptophan の食品サプリメント）は、何十例もの死の原因となり、何千人もの人々を深刻な病人にした（その多くは生涯身障者）。しかも証拠によって、遺伝子変化が、サプリメントを有毒にした異常な効果の、最も可能性の高い原因であることがわかっている。

彼は実験動物によっても、遺伝子工学の産物を食べたために病気になること、また、よく管理された GM 作物の実験から、多くの問題ある結果——諸々の内臓異常、肝臓障害、免疫機能不全など——が生じたことを説明している。

ドルーカーによれば——

その主唱者の主張とは裏腹に、世界の食糧供給の遺伝的コアを改良しようという壮大な企ては、健全な科学に基づくものでなく、科学の組織的な転覆（subversion）に基づいており、事実が一般に公開されたならば、それは崩壊するはずである。

すぐれた環境学者で人類学者の Jane Goodall は、この本に序文を寄せ、スティーヴン・ドルーカーはこの巨大な詐欺を暴いたことによって英雄であり、GM について真理の蓋をあけたことでノーベル賞に値すると言っている。

彼女は更に続けて言う——この産業が狙っているのは、

一般大衆と政府役人を、虚偽の情報を拡散させることによって、新しい食品は安全だという確固とした証拠に基づく、圧倒的な専門家の意見の一致があると、納得させることである。しかしこれは、ドルーカーが指摘する通り、明らかに真実ではない。

関係会社は一般の支持を勝ち取ろうと、ニセ情報を撒き散らしてきた、とグールドは次のように言っている——

ドルーカーは、バイオテクの工作がいかにか驚くべき成功を収めてきたか、そして一般大衆と政府の意思決定者が、巧妙で組織的な事実の歪曲と、たくさんの神話の拡散によって、いかにかまんまと騙されてきたかを説明している。のみならず、多くの尊敬される科学研究所や著名な科学者たちが、このニセ情報の無情な拡大の共犯者であったようだ。

ジェーン・グードルは、タンザニアのゴンベ溪流国立公園での、野生チンパンジーの社会的・家族的交流に関する 55 年におよぶ研究によって、最もよく知られている。彼女は、環境的・人道的仕事に対して多くの賞を与えられたが、そこには、生命科学ベンジャミン・フランクリン・メダル、フランスのレジオン・ドヌール、日本の京都賞、環境的業績に対するタイラー賞などが含まれる。

彼女は、ドルーカーの仕事、過去 30 年間で最も重要な著作の一つと位置づけた――

遺伝子工学のプロセスと、それが作り出す食品に関して作られてきた、混乱と違いを払拭するには、長い時間を要するだろう。この本は、いろんな意味で苦痛となる物語を語るけれども、それがついに語られたということが重要である。なぜなら、あまりにも多くの混乱が広がり、あまりにも多くの重要な意思決定者たちが、明らかに騙されてきたからである。

スティーヴン・ドルーカーは、水曜日、ロンドンで記者会見を行い、イギリスの王立協会に対して、それが GM 支持の立場を取ってきたこと、また農作物や食品の安全について疑問をもつ科学者たちを軽蔑する仲間になってきたことに対して、謝罪するように要求した。

(おそらく Owen Paterson や Anne Glover のような人々も、GM 作物についての正当な懸念を一蹴する役割を演じてきたことに、謝罪すべきである。特にペイターソンは最近、批判者を退ける長広舌をふるったことに謝罪すべきだ。 ここと ここを見よ。)

<http://www.globalresearch.ca/biotech-corporate-propaganda-the-campaign-against-gmos-condemns-billions-to-hunger-and-poverty/5434243>

<http://www.countercurrents.org/todhunter230215.htm>

彼の仕事は、試験のために GM 食品を与えられた動物の、腫瘍や、肝臓や腎臓の傷害を発見した研究に、光を当てている。そして彼は、これらの問題をあえて提起した研究者たちが、見せしめの処罰を受けていると抗議している。

TTIP 協定が、GM 食品をヨーロッパへ流す水門を開ける可能性があるので、「GM を越えて」というキャンペーン団体の責任者 Pat Thomas はこう言った――

スティーヴン・ドルーカーの、GM 時代をもたらした詐欺と騙しの歴史への探究は、我々がヨーロッパの食糧供給を一変させて取り返しがつかなくなる行動を取る前に、真剣に考慮すべきものである。